

令和4年度 第3回 東陽中学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和4年11月8日(火) 13時56分～15時36分
- 2 開催場所 東陽中学校会議室
- 3 出席委員 大橋 美義、飯塚 正師、高林 昇、山田 玲子、小田 明美、藤田 眞弓
- 4 欠席委員 吉春 辰郎、増谷 方明
- 5 学 校 吉田 宗弘(校長)、廣岡 誠司(教頭)、廣野幸恵(教務主任)
鈴木江利子(CS ディレクター)
- 6 教育委員会 堀田 洋一(教育総務課)
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CS ディレクター 鈴木江利子
- 9 議長の選出

第1回で、会長・副会長が交代で行うことが決定されており、大橋会長が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なく承認した。

10 協議事項

- (1)教育課程について
- (2)地域人材と連携・協働した教育活動について

11 会議記録

司会の大橋会長から、委員総数8名のうち6名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1)教育課程について

議長の指示により、教務主任から別紙資料に基づき、教育課程について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・学習状況調査結果から、本校の生徒は朝食をしっかりとして、1日のリズムや心を整えていると感じた。「自分でやると決めたことはやり遂げる」という項目が課題のようだが、それ以前に「やるべきこと」を決められないということが現実だと思う。人と違うのは嫌だとか、恥ずかしいと思う気持ちが強いと思われる。となく、「正解か不正解か」となってしまう。大人になって分かれば良いことがあるので、親としてもあるべき姿を子どもたちに見せていきたいと思う。(飯塚委員)
- ・子供たちの判断は、地域、外部の人の影響を受ける。こうでなければいけないという訳ではないので、柔軟な考え方をもちたいと思う。(教務主任)
- ・全国学力調査は、資料に「国語、数学、理科」とあるが他の教科もあるのか。(高林委員)
- ・年度によって違いがある。(教務主任)
- ・自分の子供が通っていたころから生徒の雰囲気が変わらない。行事への取組は良いがガッツが足りないように感じる。親は子供のためにいろいろ言うが子どもは親に言えるのか。コロナ禍になって学校に向く機会がなくなっているので、学校の実情が分からないのでアンケートに答えようがない。もう少し学校の様子が見えるようになると良い。(小田委員)
- ・家庭からは学力は学校にお願いしたいとよく聞かすが、学校としてはどのようにとらえているのか。(大橋会長)
- ・学力をどのようにとらえるかということになると思う。最適解を求めるために学校の努力はもちろんだが、地域の力を借りて進めたいこともある。キャリア教育は地域の人と関わることで力がつく。地域の方に認めていただくことで生徒の力がグンと伸びるので、広い意味で学力を伸ばすことになる。(教頭)

- ・難しい話だが、学力と生きる力・総合力の両面で考えたい。(大橋会長)
- ・子供たちが人として成長していくために、学校・親・地域で育てたい。(小田委員)
- ・次の視点につながっていくと考える。(大橋会長)
- ・小田委員が言われたように、自分が子育ての頃は「学校は勉強と部活」だと考え、子供に任せていた。しかし、昨年地域で三世代交流の餅つきをしたところ大変大勢の人が喜んで参加した。回覧板で中学生にも呼び掛けたい。(藤田委員)
- ・資料には過年度のものを入れて、国語・数学のように毎年実施しているものは比較することも必要だと思う。学校としては結果をどのように受け止めているか。(大橋会長)
- ・もっと勉強させたいと思う。(教務主任)
- ・生徒は100か0で、あいまいな答えは書かない。1点でももぎとりたいという気持ちがほしい。読むスピードが遅く、時間が足りない。(教務主任)
- ・記述式の問題では、テスト慣れしていないと感じる。国語は文中・文末に答えがあることなど、ノウハウを身につけさせたい。(大橋会長)

(2)地域人材と連携・協働した教育活動について

教頭から別紙資料に基づき、地域人材と連携・協働した教育活動について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・学校から提出された資料に基づいて、考えていったらどうか。(大橋会長)
- ・職業体験だが、ここ2年実施できていない。40か所くらいの事業所が協力してくれる。実施までに、子供からアンケートをとり、2年生担当が7~8か所夏休みに伺うことから始まる。その後生徒が挨拶に行き、11月頃に体験ができるようになる。これを学校支援コーディネーターにつなげてほしい(教頭)
- ・教員がやっていたことを学校支援コーディネーターがやると、地域の人々とつながりが多く顔がきくということになる。(大橋会長)
- ・職員の負担軽減だけでなく、深堀していくということになる。(大橋会長)
- ・中学2年生になって何となく体験をするのではなく、中学1年生の段階で事業所の方に講演してもらい、興味をもったりやってみたいと思ったりする機会を作ったらどうか。そして中学3年生で将来の職業のための講話を聞くと良いと思う(飯塚委員)
- ・東陽中は「未来授業」をやっている。体験する事業所も参加するのか。パパママ体験はどのように呼び掛けしているか。(大橋会長)
- ・コロナ禍で従来のようにできていないが、コロナ前の記録を調べ、そのつながりを基に、連絡を取って実施していた。(教頭)

その他連絡事項

- ・学校運営協議会の自己評価の提出について
- ・次回は、令和5年2月24日(金)14:00~15:30